

基本理念 [別記1]

みんなの生命（いのち）をまもりつづけたい。

私たちちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、持続可能な社会の発展に貢献します。

経営ビジョン「別記2」

環保協ビッグ・ピクチャー 2033

信頼と技術で『価値を共創』する環保協

1. 信頼と技術を育む
価値共創を生み出す人を育て、組織能力を高める。
 2. 信頼と技術をつなぐ
価値共創活動を通じて、つながりと好循環を構築する。
 3. 信頼と技術で選ばれる
技術の蓄積と活用により、お客さまや地域社会から信頼される。

第2次経営ビジョンの策定にあたり、経営戦略を「体的に捉えるため、基本理念の一部を見直しました」(別記1参照)。これまでは、「みんなの生命(い

当協会は、2023年4月から第2次経営ビジョン「環境・保協・ビッグ・ピクチャーアイ-2033」信頼と技術で「価値を共創」する環保協」をスタートします。新たなビジョンでは、第1次経営ビジョンで創り上げた経営基盤と長い歴史の中で培った信頼と技術を活かし、これから10年でやるべき姿を示しました。私たちは、先人から受け継いできた高き理想と熱き情熱を思い起こし、新しい時代に向けて走り出します。

第2次経営ビジョンをスタート

強みを活かし新たな価値の創出へ

10の戦略で経営目標の達成めざす

新領域分野を新設

す。そこには四国山地を成す西日本最高峰の石鎚山や二之森、笠ヶ峰、伊予富士、五葉松で有名な赤石山など三千五百メートルから二千五百メートルの高い20座の山々が連なっております。非常に急峻で複雑な地形が特徴となっています。観光地化されていない地元の人々だけが行きかう緑や青に透ける清らかな水が流れ

四国山地を巡つて

きんせんか 琴線歌

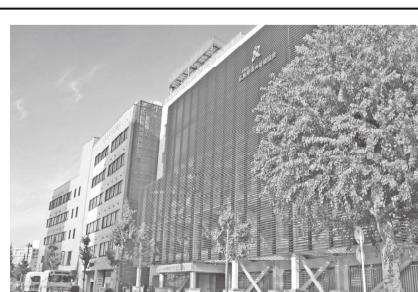
「価値共創」という葉を用いました。当協会の強みが「信頼」と「技術」であることを再認識し、さまざまな相互作用を通じて新たな価値を創出することにチャレンジしたいとの思いからです。

事業戦略は、(1)地盤戦略の視点を基盤戦略の視点を
新領域の6分野と、
人材②組織③情報
④技術・知識の4
としています。各
略では、事業方針
重点テーマなどを

た。まずは「防災環境」「健康づくり」を切り口に、さまざまな取り組み推進する予定です。当協会の運営に引き続きのご支援ご協力をお願いします。

た目標を具現化ため、10年間の展開などを長期計画にまとめま
長期経営計画は
値的な経営目標
え、6分野による
業戦略」と4つ
点で事業を支え
盤戦略で構成

めました。中でも徴的なのは、事業略に「新領域分野を新設したことです。新領域は、各分野で生じた強みや資源を活かして新たな価値を創造し、部門連携によって好循環を



一般財団法人 ~みんなの生命（いのち）をまもりたい~ **広島県環境保健協会**

〒730-8631 広島市中区庄瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 「大代表」 FAX:082(293)1520

かんほきとう

檢索



食品衛生シリーズ

～手の汚れと効果的な手洗いについて～

Aさんの細菌数（右手の平あたり）

手洗いでどのくらい細菌が洗い流されるか見てみましょう。

食品には細菌がついています。

細菌の増殖と温度の関係を見てみましょう。

当協会のホームページで配信している動画より、手の汚れに関する動画と温度

動画はこちから

QRコード

5月19日から広島市で開催されるG7広島サミットまで80日を切りました。

当協会は、昨年11月の第2回サミット県民大会・総会で「医療・衛生」関係での構成団体となり、サミット開催案内のリーフレットの配布やポスターの掲示などの普及活動を実施しました。

G7広島サミット 当協会は医療・衛生分野で貢献 オール広島で食の安全を

多くの食品事業者のお手伝いをさせていただきます。講習会は、食品中毒予防や異物対策、HACCPの運用など、食の安全向上に欠かせない内容になります。

当協会は、昨年11月の第2回サミット県民大会・総会で「医療・衛生」関係での構成団体となり、サミット開催案内のリーフレットの配布やポスターの掲示などの普及活動を実施しました。



また、当協会のホームページでは食の安全管理への動画を配信しています。この動画では、手洗いや温度管理の重要性を解説しており、食中毒防止の一助になればと考えています。

来年度の活動を見据えて、組織強化、仲間づくりにつながる2つの専門研修を実施しましたので報告します。

また、当協会は、広島県・広島市の衛生行政主催の食品衛生講習会を開催し、6団体から11名が参加しました。今年度は、宿泊だけでなく通いにも対応し、JR海田市駅に近い安芸区民文化センターで実施しました。

まずは地域課題を整

理し、解決するためのアイデアを出し、そのアイデアを実践するために必要な内容を6W2Hシートに整理し具体化しました。

その後、企画をより6W2Hシートに整理し、地域支援課員から具体的な要素を加えたり、地域支

援課員から具体的な助言を行いました。発表と助言、6W2Hシートの修正を繰り返すことでのより実践可能な企画に仕上げました。

また、環境と健康のコミュニティ活動助成事業を紹介し、企画実現に必要な資金の工面の仕方も一緒に考えま

した。

1月29日は、「広報・ツールづくりコースFacebook記者養成編 中級」を開催しました。対象者は、「初級」を受講し、6団体から7名が参加しました。スマートフォンの持参が可能な方とし、投稿回数の増加と公衛協や地域協議会の露出増加をねらって開催しました。

地域ニーズ対応や発信力強化を学ぶ 2つの専門研修を開催

天満川で鳥をテーマに観察会 イソシギなど15種類を確認

環保協



の様子など、種類による違いや特徴の説明を受けました。また、鳥類標識調査の現場を見学し、日本で野鳥を捕獲するためには、特別な資格やさまざまな許可が必要なことを学びました。

今回の観察会では、2時間でイソシギやヒヨドリ、セグロセキレイやジョウビタキなど、15種類の鳥を確認することができました。

当協会は、今後も自然観察会をはじめとした、社会貢献活動に取り組んでまいります。

(経営企画課 藤林 愛)



鳥を観察する参加者

2011年度から始めた通算9回目の自然観察会を、1月29日に開催しました。自然観察会は、社会貢献活動の一環として、天満川の自然の魅力を知る機会を提供し、環境保全の大さを学んでもらおうと、地域住民を対象に行っているものです。当日は、地元の広瀬小学校の児童など21名が参加し、当協会職員が講師を務めました。

今回のテーマは、天満川沿いに生息する「野鳥」の観察です。参加者は、最初に野鳥の観察方法や双眼鏡の使い方などの説明を受けました。その後、川沿いに移動し、双眼鏡を使しながら野鳥の観察を行いました。スタッフから、鳴き声や飛び方、食べ物、巣

魅力的なものにするために、「遊び心」や「毒氣」、「事業名の分りやすさ」などの8つの要素を加えたり、地域支援課員から具体的な要素を加えたり、地域支

援課員から具体的な要素を加えたり、地域支

援課員から具体的な要素を加えたり、地域支

援課員から具体的な要素を加えたり、地域支

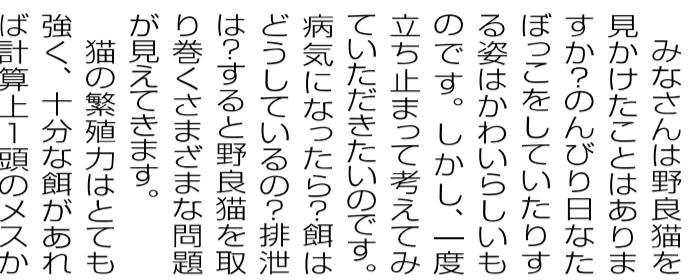
研修では、インターネット技術はもちろん、スマートフォンのカメラを使って「映える」写真撮影について学びました。その後、講師の助言を

しました。今後、受講者から「映える写真」を添えた活動記事が、積極的に発信されることを期待しています。



講師(左)の助言を基に、自然観察会参加者のローランゲル撮影を行う研修参加者(右)

人と動物との共生社会 野良猫問題から考える



本当に助けたいと思つてゐるのなら、大切な家族として迎え入れてあげてください。もし自分の家で飼うことが難しくても、地域の理解を得て地域で管理することで、野良猫による問題を解決していく「地域猫活動」とい

に、その子やその子孫の命、その子たちが引き起こす被害に責任を持つのかしっかりと考えましょう。

ある調査では、野外で死亡した猫の数は殺処分数よりも確かに多いとも言われています。交通事故だけでなく、病気や寒さなど、外は猫にとって過酷な環境なのです。

満足にならざりしなしか
よく考えてみましょつ
県では引き続き「人
と動物との調和のとお
た共生社会」の実現に
向けて施策を展開して
いきます。県民の皆様
のご協力をお願いしま
す。

う方法もあります。山島県では、餌やりやイレのルールを定め適切に管理を行つて、ある地域に対して、無効で不妊去勢手術を行います。動物や地域への責任が果たせない場合は、餌を与えることを我慢するのも、立派な動物愛護です。優しさが自

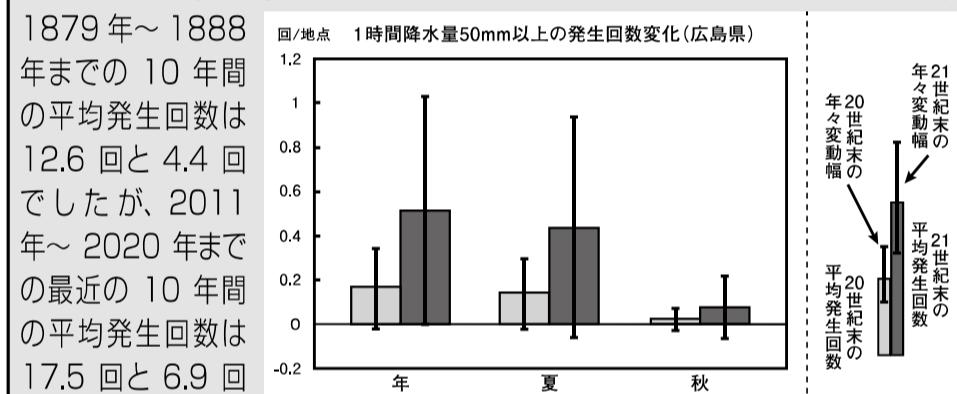
近年、「ゲリラ豪雨」や「これまで経験したことのないような集中豪雨」といった言葉をよく耳にするようになり、広島県でも平成30年7月豪雨の影響により甚大な災害となったことから、降る雨の量が増えて いるかのように感じていると思 います。しかしながら、広島県 各地の年降水量の変化を長期 にわたって調べてみると、大き な増減は見られません。

ひろしま 気候変動適応センター

で共に増加しています。年間の無降水日は、225日～250日程度で推移しており、1879年～1888年の10年平均日数の239回から、2011年～2020年の10年平均日数の245回に増加しています。

最後に、降雨量の将来予測をご紹介します（下図参照）。広島地方気象台は、20世紀末から21世紀末にかけての広島県の気候変化について、「1地点あたりの1時間降水量50mm以上の年間発生回数は3倍以上になる」「1地点あたりの年間無降水日数は約10日増加する」と予測しています（引用：中国地方の気候変動2017）。今後は、ますます短時間強雨に注意が必要です。

(ひろしま気候変動適応センター)



公衛協が
取り組む
防災・減災



土砂かきをする被災者とボランティア（上）、床下に溜まった汚泥をかき出すボランティア（下）

汚泥（土砂や污水）は単に水と土砂だけではなく、さまざまな菌や品、油、下水などを含む可能性があります。このため、汚泥を放置してしまうと、カビや悪臭、衛生害虫の滋生などにつながるだけでなく、泥が乾燥すると細かなホコリとなって飛散し、呼吸器や皮膚に炎症を引き起こします。健康被害やごみ所トラブルにつながるので、公衆衛生の維持のためにも、速やかに除去が必要とされています。

「蚊とハエのしない郷」、「建設運動」や「地域ぐるみ大掃除復活運動」「散乱ごみ追放キャンペーン」など、地域ぐるみで衛生害虫の駆除運動や美化運動を展開し、住みよい環境づくりを支えてきました一方で、平成30年7月豪雨の際、家屋や庭道路の土砂の撤去や道路掃など、地域の公衆衛生の維持に力を発揮できなかつたという反省もあります。

すつ泥我 省で衛清月へく開運るべく。土のホランニアはどうすれば呼べるのか、どんな道具が必要なのか、土嚢袋はあるか、空き家はどうするか、独居の高齢者やハン三イキヤップのある方の家の復旧作業は大丈夫かなど、考えておく必要があります。

土砂かきの肉体労働は大変です。ボランニアに来てくださる支援者がスムーズに活動できるよう、地域の調整役として公衛協が役割を担える場面がないか、一緒に考えてみましょ。

**住宅地に流れ込む汚泥
残すとカビや悪臭、衛生害虫発生の恐れ**



登山客による移入が問題となっているオオバコ

紛れ込む侵入者

知らないうちに生物を運んでいるかも



「意図的な移入」は、気づかないうちに起こるため、普段から心掛けが重要です。私たちに身近な例では、登山客の靴に付着した土とともに運ばれる植物の種子が問題となっています。(特に登山靴は、スニーカーなどと比べ複雑な形状の底面をしており、種子を含んだ土を付着させやすいため注意が必要です)これにより、私たち人間は「気づかぬうちに」山から山へ植物を運んでしまうのです。

- 外来生物被害予防三原則
- 1. 入れない ~ 悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に入れない
- 2. 捨てない ~ 飼っている外来生物を野外に捨てない
- 3. 拠げない ~ 野外にすでにいる外来生物を他地域に拠げない

お知らせ



アカミミガメとアメリカザリガニが、2023(令和5)年6月1日より“条件付”特定外来生物に指定されます。



規制される行為など、詳しくは環境省のHP(右)をご覧ください。

一方、「非意図的に」移入された外來種もいます。例えば、強い毒を持つセアカコケグモやヒアリは、海外から小型昆虫をはじめとしたさまざま生物が、同様の方法で移入されています。「意図的に」移入され

ます。一方、「非意図的に」移入された外來種もいたしました。これらは、いずれも目的をもつて移入されたものや、ウシガエルやニジマスのよう、食用を目的として移入されたものがあります。これらは、必ずしも「意図的に」移入されました。

生息していない場所へ移動していきます。非意図的な移入を防ぐためにも、より多くの人が外來種について知り、対策を考えていく必要があるのです。

精度管理への取り組み

更なる技術の向上を目指して

環境生活センターでは、食品や飲料水の安全の確認や、海、川、土や大気など環境中に有害なものがいか、コンクリートなど材料の状態はどうかなど、さまざまな検査・分析を行い、皆さまの安全・安心な生活に貢献しています。

その中で、品質保証課は、お客様に成績書が届く前の最後の砦として、検査・分析に係わる品質管理の根幹を担っています。また、検査・分析を迅速に行うため、DX化に伴う業務の改善等も行っています。



技術監査を行う職員 (左)

環保協の環境生活センター

(30) 品質保証課

今回は、品質保証課の業務の中でも大切な「品質管理」について紹介します。

品質管理の取り組みとして、外部精度管理調査への参加、内部精度管理、内部監査や技術監査の実施などがあります。

精度管理は、値が伏せられた試料を分析して、正しい値を出すことができるかどうかを見るもので、外部の機関が集まって実施される外部精度管理と、自分たちで実施する内部精度管理があります。当協会は、食品、飲料水、環境、材料それぞれの分野で良好な評価を得ています。

また、品質保証課が実施する内部監査や技術監査では、決められた手順どおりに正しく分析を行っているかを第三者の目でチェックしており、日々の検査業務の品質を担保しています。

これらの取り組みを通じて、「信頼できるかんほきょう」として、確かな技術で選ばれ続けるよう、分析技術のノウハウの蓄積と精度の向上に努めています。

(品質保証課 岩木一栄)

県は、食品衛生基準を満たした製造・加工施設について、独自に認証する制度を実施しています。適合した施設は、商品に『認証マーク』を貼ることができます。当協会は認証機関として、食品衛生管理の認証・更新審査や指導などを実施しており、このシリーズでは、当協会が認証した事業者の声を紹介し、食品衛生管理の重要性を伝えていきます。



■ 認証を受けようと思つたきっかけは?

北は札幌、南は鹿児島まで物産展を全国展開していると、品質管

理を示す共通の「ものさしが必要になってきた」として、取引先の担当者に對して、広島県HACCP制度の取得を提示する事で、確かに自ら設定した衛生管

理を示す共通の「ものさしが必要になってきた」として、取引先の担当者に對して、広島県HACCP制度の取得を提示する事で、確かに自ら設定した衛生管

理を示す共通の「ものさしが必要になってきた」として、取引先の担当者に對して、広島県HACCP制度の取得を提示する事で、確かに自ら設定した衛生管

理を示す共通の「ものさしが必要になってきた」として、取引先の担当者に對して、広島県HACCP制度の取得を提示する事で、確かに自ら設定した衛生管

瓶詰商品のクレームゼロ

年間を通してかき製品を販売

理のポイントは?衛生管理で最も重要なのは加熱工程だと考えています。検査は抜き打ち方式のため、製造した商品において100%の安全性データは出せませんが、全

従業員の衛生管理意識が向上しました。自らの行きを振り返ることができる、個人個人の作

取り組みを従業員に浸透させることは、それほど難しくはありませんでした。結果として、使用しているかきは廿日市市産のみです。また、夏場が遠ざかるため年間を通してかきの販売を確保したいです。

■ 消費者へのアピール

登録日:2023年1月2日
(弁当・そうざい製造業(配送、卸売り))
所在地:廿日市市大野4276-1
創業:1992年(平成4年)
話し手:代表取締役 安井忠充 様(中央)
常務取締役 安井佳世子 様(左)
工場長 岡川正樹 様(右)

ます。更なる全国展開を見据えて、高い衛生管理を求められている有名百貨店への進出の担保としています。

年間を通してかきの販売を確保したいです。夏場が遠ざかるため年間を通してかきの販売を確保したいです。

市市産のみです。また、夏場が遠ざかるため年間を通してかきの販売を確保したいです。

